

「山元町震災復興基本方針」に関する住民説明会

意見交換結果

■住民説明会の概要	1
■対象行政区の位置	2
■意見の概要	3
○対象行政区毎の傾向	3
○主な意見のまとめ	4
■対象行政区における意見交換結果	6
○八手庭・横山・大平・小平・鷲足・山寺	6
○花釜・牛橋（①仮設住宅にお住まいの方）	8
〃 （②現在、花釜にお住まいの方）	11
〃 （③現在、牛橋にお住まいの方）	15
○中浜・磯	20
○山下・浅生原・高瀬・合戦原	24
○町・真庭・久保間・下郷・中山・上平	27
○新浜・笠野	31
○町外へ移転された方	34
■ご意見記入シート	39
○主旨	39
○回収状況及び意見の傾向	40
○意見結果	42
○主な意見のまとめ	41
○意見結果	42

平成 23 年 9 月

■住民説明会の概要

○開催期間

- ・平成23年9月2日（金）～10日（土）

○開催場所

- ・中央公民館大ホール、坂元公民館大会議室、名取市商工会2階大研修室

○次第

- 1 開会
- 2 挨拶
- 3 「山元町震災復興基本方針」および土地利用構想案に関する説明
- 4 意見交換
- 5 閉会

○配布資料

- 1 「山元町震災復興基本方針」に関する住民説明会【復興まちづくり土地利用構想(案)】
- 2 よくある質問のまとめ
- 3 「山元町震災復興計画」の策定に係るスケジュール

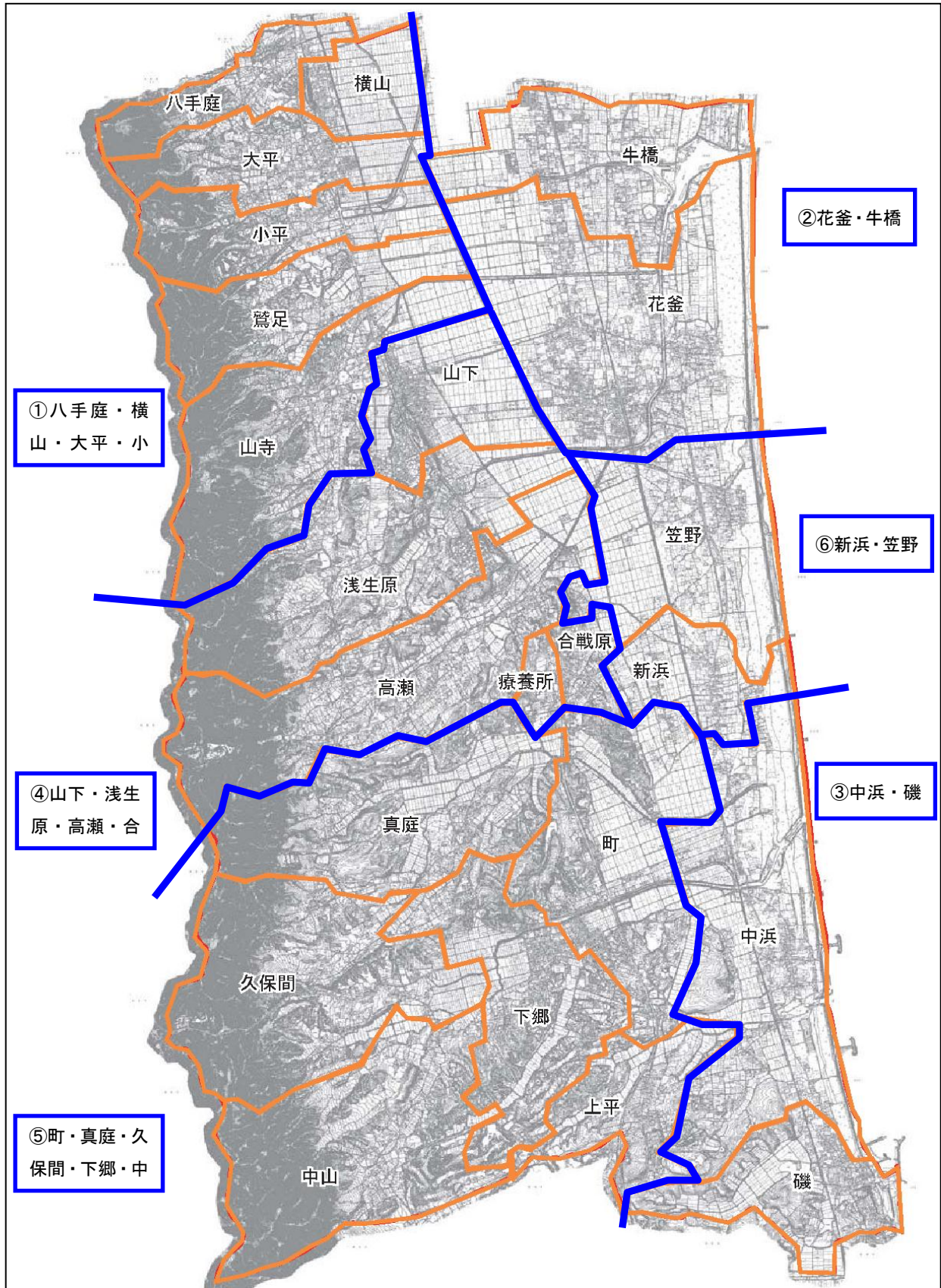
○開催スケジュール及び出席人数

対象行政区	開催日	開催時間	開催場所	出席人数 (割合※)	対象世帯数 (うち、仮設住宅入居世帯)
①八手庭・横山・大平・小平・鷺足・山寺	9/2 (金)	18:30～20:30	中央公民館 大ホール	67人 (7.9%)	849 (8)
②花釜・牛橋	9/3 (土)	①現在、仮設住宅にお住まいの方 10:00～12:00	中央公民館 大ホール	296人 (64.5%)	459
		②現在、花釜地区にお住まいの方 13:00～15:00	中央公民館 大ホール	188人 (22.6%)	832
		③現在、牛橋地区にお住まいの方 16:00～18:00	中央公民館 大ホール	114人 (27.5%)	415
③中浜・磯	9/5 (月)	18:30～20:30	坂元公民館 大会議室	153人 (32.9%)	465 (198)
④山下・浅生原・高瀬・合戦原	9/6 (火)	18:30～20:30	中央公民館 大ホール	138人 (11.3%)	1,224 (69)
⑤町・真庭・久保間・下郷・中山・上平	9/7 (水)	18:30～20:30	坂元公民館 大会議室	152人 (14.8%)	1,029 (43)
⑥新浜・笠野	9/8 (木)	18:30～20:30	中央公民館 大ホール	212人 (63.9%)	332 (158)
⑦現在、町外に避難されている方	9/10 (土)	10:00～12:00	名取市商工会 2階大研修室	150人 (11.5%)	1,306
合 計				1,470人 (26.4%)	5,561 (830)

※被災前に居住していた行政区ごとに会場設定を行ったため、「②花釜・牛橋地区」と「⑦現在、町外に避難されている方」を除いた各会場の対象世帯数は、震災前の平成23年2月末時点のデータを使用している。(その他は8月末時点のデータを使用)

※全会場の対象世帯数の合計は、震災前の世帯総数5,561を超える(6,991)計算となることから、出席者割合の算出は震災前の平成23年2月末時点の世帯総数5,561を基にして行った。

■対象行政区の位置



■意見の概要

○対象行政区毎の傾向

意見分類 対象行政区	① 鉄道及び駅	② 多重防衛(堤防・防災緑地・県道)	③ 災害危険区域・建築制限	④ 防災集団移転促進事業・移転	⑤ 災害公営住宅・仮設住宅	⑥ 住民参加・アンケート・周知	⑦ 教育・医療・福祉	⑧ 事業計画・スケジュール・事業費	⑨ 原発対応	⑩ 復旧(ガレキ処理・インフラ等)	⑪ バス(代行バス・町民バス等)	⑫ 自然エネルギー	⑬ 産業振興・観光	⑭ 避難・安全対策(ハード・ソフト)	⑮ その他	質問の数
① 八手庭・横山・大平・小平・鷺足・山寺	3	—	—	1	1	7	1	—	—	—	—	—	—	—	2	14
② 花釜・牛橋	仮設住宅	10	—	5	3	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	17
	花釜	9	2	4	1	—	2	1	2	—	1	—	—	—	2	23
	牛橋	9	1	5	5	—	2	1	4	1	3	2	1	1	3	31
③ 中浜・磯	2	—	2	3	—	1	—	2	—	4	—	—	—	—	2	12
④ 山下・浅生原・高瀬・合戦原	1	—	—	1	2	—	1	2	3	—	—	—	1	4	2	16
⑤ 町・真庭・久保間・下郷・中山・上平	7	—	—	3	1	—	1	1	—	—	2	1	—	2	—	17
⑥ 新浜・笠野	6	1	3	1	3	—	—	3	—	—	—	—	3	3	2	20
町外へ移転された方	4	6	2	1	1	—	1	1	—	—	—	1	2	9	5	28
合計	51	10	21	19	8	13	6	15	4	8	4	3	7	19	18	178

※各項目の計が質問の数と合わない場合がある。

※対象行政区において、意見の多かった上位2つの項目の数値を赤字としている。

【まとめ】

・全9回で最も意見が多かったのは「①鉄道及び駅 51pt」である。次点は「③災害危険区域・建築制限 21pt」であり、僅差で「④防災集団移転促進事業・移転 19pt」、「⑭避難・安全対策 19pt」の順となっている。

○主な意見のまとめ

①鉄道及び駅

- ・ 新ルートについて（原位置復旧としない理由、隣接町との調整状況、用地取得交渉や文化財調査等による遅延、宮城病院への新駅設置など）
- ・ 原位置復旧について（新ルートよりも復旧が早いのではないかと、多重防御とすれば原位置復旧でも安全ではないかなど）

②多重防御（堤防・防災緑地・県道）

- ・ 多重防御の考え方について（どれくらいの津波まで防げるのか）
- ・ さらなる安全性の確保について（JR常磐線や農免農道などを3線堤とできないか）
- ・ 防災緑地の整備について（津波への配慮と公園としての機能の両立）

③災害危険区域・建築制限

- ・ 第一種、第二種、第三種の境界について（詳細の区域を知りたい）
- ・ 第一種、第二種、第三種の建築制限の内容について（既存住宅の取り扱い）
- ・ 防災集団移転促進事業の対象区域について（第二種及び第三種は対象ではないのか）
- ・ 災害危険区域の浸水深の考え方について（多重防御後の浸水深ではないのか）

④防災集団移転促進事業・移転

- ・ 土地の買取について（被災者に配慮した買取価格、非宅地の取り扱いなど）
- ・ 移転に対する助成について（二重ローン対応、防集以外の移転への助成）
- ・ 移転する宅地規模の大きさについて（小さくて営農できない）

⑤災害公営住宅・仮設住宅

- ・ 災害公営住宅の助成について（制度拡充）
- ・ 災害公営住宅の充実について（建設促進）
- ・ 民間賃貸住宅の入居期間の延長について

⑥住民参加・アンケート・周知

- ・ 町外居住者や仮設住宅居住者に対する情報提供（ホームページ以外の紙面による情報提供）
- ・ 継続的な住民意向の把握（アンケートや説明会の実施）

⑦教育・医療・福祉

- ・ 今後の教育施設等について（山下第二小学校、中浜小学校、保育所など）
- ・ 子どもたちの心のケアについて
- ・ 宮城病院を核としたまちづくりについて（医療・福祉施設の充実）

⑧事業計画・スケジュール・事業費

- ・ 各種施策の優先順位について
- ・ 各事業の見通しについて（具体的なスケジュールの提示と事業費）

⑨原発対応

- ・ 福島原発に対する放射線濃度の調査体制の充実（風評被害の払拭）

⑩復旧（ガレキ処理・インフラ等）

- ・ 復興よりまず復旧
- ・ ガレキ処理や建築物の基礎の撤去について

⑪バス（代行バス・町民バス等）

- ・ 代行バスの利便性の向上について（時間短縮、バス停の改善）
- ・ 町民バスぐるりん号の活用について（日曜日の運行、観光利用）

⑫自然エネルギー

- ・ 太陽光発電の導入について

⑬産業振興

- ・ 漁業の振興について
- ・ 農業の振興について（アップルラインの活用、集約化等）
- ・ 企業誘致について（雇用の場の確保等）

⑭避難・安全対策（ハード・ソフト）

- ・ 造成宅地における地震に対する地盤検討について
- ・ 道路の拡幅や歩道設置について
- ・ 避難に対する心構えについて
- ・ 防災無線の充実とリカバリー対策について
- ・ 内水対策について

⑮その他

- ・ 土地利用構想（案）に基づく計画の推進
- ・ 地元雇用につながる復旧・復興事業について
- ・ 県道の拡幅について

■対象行政区における意見交換結果

○八手庭・横山・大平・小平・鷺足・山寺：9/2（金）18:30～

- 01 JR 常磐線のルートは、浜吉田駅から直線のほうが良いのではないかと。カーブにすると速度が落ちるし、コストも増える。将来を見据え、じっくり考えてもらいたい。①
→ ルートは、互理町、新地町、JR 等の関係機関と調整を図りながら進めてきました。また、多くの住民にとって利便性が高いまちづくりを目指し、技術的側面からも確認を行いながらこのルート案に至りました。
- 02 今後、山下第二小学校はどうなるのか。⑦
→ 現在、山下第二小学校及び中浜小学校は使用できないため、山下第二小学校は山下小学校に、中浜小学校は坂元小学校に併設しています。今後は、住民の戻り具合や新たな宅地の整備、地域の復旧具合などをみながら、望ましい学校の規模を検討します。
- 03 まちづくりに向けた復興会議が行われているが非公開であり、どのような議論が行われているのかわからない。⑥
→ 復興会議は、委員の忌憚のない多くの発言を期待するものであり、その発言が生活に影響を及ぼす可能性があると考え非公開としています。会議資料や委員の発言の要旨は町のホームページで公開しています。
- 04 仮設住宅に入居している住民はパソコンも流されており、ホームページが見られるはずがない。紙による印刷物で随時情報を流してほしい。⑥
→ 会議の概要は広報等でも情報発信しており、今後もそのように努めます。
- 05 復興会議の町民代表の選出はどのような基準で行ったのか。委員の町民代表も公表されていない。⑥
→ 委員は10名で、うち被災者5名、女性3名で構成し、年齢的なバランスなども考慮しながら総合計画策定時に協力いただいた方などから選出しました。委員は、公開されている有識者会議の傍聴席の最前列に参加いただいております。ご存知の方もみえると思います。なお、委員の氏名は広報でも公開されています。
- 06 アンケートを1回実施しただけでは、住民意向を反映したと言えるか疑問である。⑥
→ 町民参加によるまちづくりを進めるため、住民意向については、各種団体との意見交換会や全世帯へのアンケート調査を実施しており、現在も被災者の方へのアンケート調査を行っております。今後も、住民の意見を聞きながら進めていきます。
- 07 JR 常磐線の移設を一回のアンケートで決めるのはいかがなものか。また、町で移設を決めてから新聞発表を行うやり方にも疑問を感じる。議会の理解は得られているのか。①
→ JR 常磐線の早期復旧を行うには、12月議会で復興計画の承認を受ける必要があります。限られた期間で意見を集約した結果であります。なお、新聞発表されたルート案は決定されたものではなく、有識者会議に示された案であり、決して恣意的なものではありません。

※意見末尾の丸数字は、P3 表の「意見分類」を表す

08 今後、アンケートを予定しているか。⑥

→ 新たなアンケートは予定しておりませんが、本住民説明会や議会での意見などを踏まえ柔軟に対応していきたいと思います。

09 町長が変わってから町のホームページを見るのが楽しくなった。本日の資料もホームページに掲載いただくとともに、仮設住宅などには紙での配布もお願いしたい。⑥

10 職員の皆さん、これまでご苦労様でした。良い計画ができたと思うので、色々な意見があると思うが、計画に沿って進めていただきたい。⑮

11 防災集団移転促進事業や災害公営住宅の補助、条件等については、もっと被災者の財源的な現実を把握して進めてもらいたい。④⑤

→ 本日の資料の補助や条件は現行制度のものであり、現在、国、県等に対して、補助率の改善、規制緩和等、できる限り被災者の負担が軽減できるよう要望しております。なお、災害公営住宅については、早急整備を考えており、来年度末までには一部先行して完成できるよう調整しております。

12 住民の意向は、時間経過とともに変わってくる。災害公営住宅の件数や規模については、アンケート調査を行っていると感じたが、その結果だけを見て進めると、整備後にはニーズが変わっており、無駄な投資となってしまう可能性もあるので、今後も住民の意見をよく聞いて、財政負担等も見極めながら進めていただきたい。⑥

→ ご指摘の通りだと思います。要所で住民の意見を確認しながら規模や戸数を定め、財政への影響も考慮しながら進めたいと思います。

13 名前や行政区を言って発言させるのは、自由な意見を妨げるものとなる。明日からの対応を改善していただきたい。⑮

→ 検討させていただきます。

14 復興計画の策定は、「町長が独断で決めること」と「町民が決めること」の2つに分かれると思う。町長が決めることは安全に関することであり、国や県と相談し、その結果を住民に知らせれば良いと思う。JR常磐線のルートについては、賛成・反対、色々な意見があると思うが、個人的には原位置は危険と思っており、その旨理解していただくと良いと思う。①

→ 復旧が急がれるため、決断とそのスピードが求められますが、その中で住民からまちづくりの意見を聞く努力をすることは大切なことと思っています。色々な意見を伺い、そのなかで一定の判断をしていきたいと思います。なお、JR常磐線については、JR、互理町、新地町、県などの意見も踏まえながら進めていきます。

以上

○花釜・牛橋（①仮設住宅にお住まいの方）：9/3（土）10:00～

01 JR 常磐線のルートを明示してほしい。①

→ 具体的なルートは、隣接町や JR、県との調整や現地の確認も必要なので、現時点で正式なルートを示すのは困難な状況です。大まかなルートとしては、浜吉田駅を起点として、国道 6 号と既存山下駅との間を通り、宮城病院、坂元集落を抜けるルートを検討しております。

02 JR 常磐線の新地町側はどのように考えているのか。①

→ 新地駅は、旧駅と役場の中間あたりで JR と調整中と聞いています。

03 山下駅は原位置でいち早く復旧してほしい。アンケート結果で、7～8 割の方が JR 常磐線を山側に移すとあるが、被災者ではない方の意見が多いのではないかと。花釜・牛橋の方がどのように思っているかが重要である。①

→ アンケート結果は 7 月に開催された有識者会議の資料に掲載されていますが、内訳についてご報告します（下表の結果を報告）。

	原位置での復旧	集落の位置に配慮して復旧	将来の街の姿を考えた新しい位置で復旧
花釜	29.7%(29.8%)	21.3%(20.7%)	40.4%(41.0%)
牛橋	17.9%(18.5%)	27.1%(26.9%)	44.1%(42.8%)
全体	10.0%(10.2%)	18.7%(18.6%)	62.2%(61.9%)

※（ ）は 7 月開催有識者会議後の確定値

→ JR の基本的な考え方は、2 度と津波被害を受けないよう安全なエリアで盛土や高架構造で復旧することと鉄道駅が新しい市街地形成の核となることです。震災時に貨物列車が停車したことにより踏切が開かず、渡れなくて亡くなられた方もいることから、道路との交差部においては踏切を設置しないもの、つまり高架構造で考えています。このような考えで原位置復旧を行うと高架構造となりますが、大きなコストアップになります。仮に盛土とすると用地幅が 30m 程度必要となり、この区間には建物が建っていることから、買収費用がかなりかかります。本日の案では、新山下駅周辺は農地であるので、安価で用地取得も比較的早期に行えるため、早く復旧できるものと考えています。

04 JR は 3 年で整備できると聞いたが本当なのか。用地買収も含めて何年かかるのか。国の予算は大丈夫なのか。①

→ 工事期間の 3 年は、工事区間を 3 年で整備できるよう区切って実施すれば可能と聞いています。用地買収は、新山下駅までは農地がほとんどですので、比較的短期間で可能と考えていますが、個別に買収するのではなく、面的に一体で事業が進められるよう、新たな制度や事業を国に要望しているところです。なお、JR は民間事業者で補助がないため国に補助要望をしておりますが、町としても早期復旧を行うため、国に補助要望を行っております。JR 常磐線開通までの町民の足は、町民バスぐるりん号の台数増加や JR 代行バスの増便、民間バスの協力などにより確保するものと考えています。

※意見末尾の丸数字は、P3 表の「意見分類」を表す

05 JR 常磐線を仮設で暫定的に原位置復旧した場合、何年でできるのか。①

→ JR は民間事業者であり、仮設での暫定整備は二重投資となることから難しい状況です。仮に山下駅に復旧すると、現在互理駅まで運行している代行バスが山下駅までとなりま
す。ピーク時には大型バスが 10 台停車し、かつ自家用車の送迎も重なることから、原位置での収容は難しいものと思います。

06 新たに堤防や防災緑地等の整備（多重防御）を行うのであれば、現在の山下駅、坂元駅で安全ではないか。①

→ 今回の津波を防御するには 20m の堤防が必要となりますが、これは現実的ではないため、本計画では多重防御による減災という考え方を基本としています。新しい堤防や防災緑地、県道の嵩上げは、今回のような規模の津波に対し浸水被害を防ぐことはできませんが、避難するための時間を稼ぐものとして位置付けています。したがって、これらを整備しても現在の山下駅及び坂元駅の安全性が確保されるものではないことをご理解ください。

07 災害危険区域について、第一種、第二種、第三種の境界はどのようになっているか。③

→ 本日の資料は区域の考え方を示したもので、浸水深により区分していますが、実際の指定にあたっては、道路など分かりやすい境界を設定するものと考えています。

08 災害危険区域の第二種は、大規模修繕は可能か。③

→ 可能です。

09 災害危険区域の第二種は、防災集団移転の対象になるか。③④

→ 防災集団移転の対象は、新築・増改築を規制する第一種の区域のみですが、構造の制限を受ける第二種及び第三種については、町独自の移転に対する助成制度を検討したいと思います。

10 この災害危険区域の浸水深は、多重防御の各種施策の整備後の数値とみて良いのか。③

→ 今回の津波に対し多重防御の各種策がどのように機能するかシミュレーションを行いますが、今後、どのような地震が起こるかは想定が難しいので、現段階では今回の津波に対する実績値をベースにすることを基本に考えています。

11 町の定住促進事業で山元町に転居してきたが、現在の居住地は災害危険区域の第二種・第三種のあたりとなっている。これらの地区は、建築制限により新たな住民が入ってこなくなると思うので、新山下駅周辺に移転したい。ぜひ助成制度をご検討いただきたい。

③④

→ 定住促進事業で転入していただいた方が町外移転となることは町としてもしのびないので、単独移転に対する町独自の支援策を検討したいと思います。

12 JR 常磐線の整備が 3 年というが、現在、町外へ通学する高校生やこれから高校生になる子どもたちはどうすれば良いのか。まちづくりだけでなく、人づくりも大事である。高等教育施設のない山元町民は互理町以北に転出してしまおうのではないか。①

※意見末尾の丸数字は、P3 表の「意見分類」を表す

→ 地震による被害が大きかった中浜小学校及び山下第二小学校は、それぞれ坂本小学校及び山下小学校に併設し、現在、授業を行っています。そのため、学区外や町外から通学している児童もあり、保護者の皆様には大きな負担となっているため、通学費の助成を継続させていただいております。高等学校については、一時町内に、との運動もありましたが、今はありません。子どもたちにとってかけがえのない時期で申し訳ありませんが、JR 常磐線が開通するまでの期間の負担はお願いしたい。

13 この復興まちづくりについてどの程度の費用が発生するのか。推進主体はどこになるのか。我々の多くは JR 常磐線で仙台に通勤しており、待ってられない。コンパクトシティは良いと思うが、それができる頃にはだれもいなくなってしまう。①

→ 復興まちづくりの推進主体は町であり、責任は町政を担う町長にあります。費用については、未曾有の災害に対応すべく、新制度の検討なども行っているため、すぐにといいわけにはいきませんが、計画に対する住民の意見をお聞きしながら、また国や県とも調整しながら計画をまとめ、皆さんにお示ししたいと思います。なお、計画の期間については、実現性の高い計画とするため、知恵を出しながら進めていきたいと思っています。

14 住民、被災者の声を真摯に聞いてまちづくりを進めてほしい。⑥

15 津波対策で第二の防潮堤として県道を 5m とすれば、JR 常磐線は原位置のまま良いのではないか。①

→ 5m の堤防は、引き波で破堤してしまう可能性が高いこと、また、現在検討しているシミュレーションにおいて、県道を 5m とした場合、3m とした場合で県道西側の被害の状況があまり変わらないことから、現時点では 3m が妥当な高さと考えています。

16 JR と町民との座談会をぜひお願いしたい。①

→ その旨、JR にお伝えします。本計画で多重防御の施策を掲げていますが、それらは一朝一夕にできるものではありません。また、これらが完成しても今回のような津波は防げません。そのため、JR 常磐線は浸水しないエリアで嵩上げによる復旧を目指しており、国・県とも調整しながら進めていることをご理解いただければと思います。

17 防災集団移転促進事業による土地の買取価格はいくらか。その結果によっては移転を断念せざるを得ない。④

→ 買取価格は鑑定評価等に基づくため、今提示することはできません。移転地の価格はその土地の取得費や造成費、周辺価格などを踏まえて設定されますが、賃貸とすることも可能です。なお、本日の資料はあくまで現行制度のものであり、新たな制度や助成措置について現在要望しているところです。たとえば、防災集団移転促進事業を区画整理手法で行うことも考えられます。災害公営住宅については集合住宅の他、戸建ても可能ですが、現在、その必要規模等についてアンケートを行っていますので、その結果は説明会やホームページ、紙面などで紹介させていただきます。

以上

○花釜・牛橋（②現在、花釜にお住まいの方）：9/3（土）13:00～

01 自宅が災害危険区域の第3種に位置するが、大規模半壊となっている。一階の部分を修繕すれば居住できるが可能か。建築制限が11月まで延長される中、どのように対応したら良いか。③

→ 山下駅周辺は居住地として位置づけており、第3種の位置であれば修繕しての居住は可能です。ただし、新築、増築、改築はできません。

02 修繕して住む際、ガレキが出るが町で撤去していただけるか。⑩

→ 修繕によるガレキや防災集団移転促進事業によるガレキは町で責任をもって撤去します。

03 JR常磐線のルートを変えるのは良い案だと思うが、用地買収も含め3年間でできるか心配。新山下駅の位置は、以前山下中学校の建設の話があったとき、地盤が悪くてやめたと広報にあったが大丈夫か。①

→ JRからは用地買収後3年で整備可能と聞いています。地盤についてはルート決定後地質調査を行います。現在の土木技術で可能と考えています。なお、JRは、津波被害のあったところでの復旧は考えておりません。また、今回の震災では、JR貨物が止まった影響で踏切が下りたままとなり、避難できなかった方がみえたことから、すべて立体交差としたいと聞いております。浜吉田駅も高架で考えているようです。

04 JRが3年でできると言うのであれば可能と思うが、埋蔵文化財調査は大丈夫か。①

→ 常磐自動車でも発掘調査を行っています。筋状に発掘をして全容をつかむなど、整備期間に影響を与えない方法で調査を行いたいと考えています。

05 災害危険区域の第一種では増築は無理と聞いたが、平屋をかさ上げして二階建てにするのは可能か。③

→ 平屋の上への増築については、基礎をあげる必要がありますが、実際に可能かどうかも含めてご検討いただきたいと思います。

06 小学校二年生の孫が家に帰りたくないと言っている。建築制限がかかる災害危険区域にある住宅の防災集団移転は可能か。③④

→ 新築を禁止している第一種の禁止区域のみ可能としていますが、第二種及び第三種の区域についても、町としての支援を別途考えています。町では、町外からの転入者に対する定住促進の助成がありますが、町内移転について新たな制度を設け、一定の助成を行いたいと考えています。

07 JR常磐線の位置が本日の資料の位置に決まれば、周囲の水田の宅地化が可能となるか。①

→ 新駅と旧駅が連担したまちづくりを考えており、農振解除の手続きを進めていきたいと考えています。

※意見末尾の丸数字は、P3表の「意見分類」を表す

08 最近建てた家が、災害危険区域の第一種に指定されるようだが、まだローンが 20 年程度残っている。移転は賛成でも反対でもないが、借金を背負って新たな移転でまた借金は耐えられない。建替えはダメとのことだが、どの程度まで良いのか。③

→ 災害危険区域の第一種は新築、増改築は禁止となります。現在お住まいの住宅が全壊流失ではなく住める状態であれば、そこに住んでいただくことは可能ですし、本区域の指定が即移転を強要するものではないことはご理解いただきたいと思えます。今後は、収入等の状況に合わせ、防災集団移転、災害公営住宅への入居、災害公営住宅の取得などが考えられますが、これらは現行制度ですので、新たな制度創設なども要望しながら、対応していきたいと考えています。建替えの定義は建築基準法によりますが、この件については個別にご相談ください。なお、災害危険区域の第一種の趣旨は、危険な地域に新たな建物を増やさない、ということをご理解ください。

09 JR 常磐線のルートの基本設計、詳細設計にどれくらいの期間を予定しているか。①

→ JR とは来月ルート決めを行い、早期に測量を行っていただけるよう要望する予定です。設計内容については説明会などを開催し、進めていきたい。

10 JR は民間なので、3 セクでやるという選択肢はないか。①

→ JR は民間企業なので補助制度がないが、今回は未曾有のことなので JR から国に補助を要望していますし、町も JR に国からの支援がなければ厳しいということで、補助の要請をしています。協力して進めていきたい。

11 JR 常磐線が国道 6 号の上を通過するため、かなり高架となる。施工後の沈下が予想されるため、開通が遅れるのではないか。①

→ 沈下期間を 1 年程度想定し、それを含め工事期間を 3 年としています。

12 土地利用構想（案）は示されたがいつできるかが分からない。すでに交通不便により移転された方もいる。町民の生活を守るという視点が必要であり、二重投資となるかもしれないが JR への当面の仮設復旧をお願いすべきではないか。①

→ 本日お示した土地利用構想（案）に基づき、誰がいつ何をするか事業計画を定めていきます。JR は今回の被災を踏まえ、現状復旧はしないものとしています。仮に原位置で高架とした場合、現線路幅 8m では足りないため整備できません。高架の場合は、盛土より約 3 倍の費用がかかり、管理用道路も必要となりますが、一方、盛土で側道をつけると 30m の用地幅が必要となり、用地買収及び移転補償が大きな負担となります。その点をご理解いただければと思います。

13 アンケートは届いたが、このような説明会があることは人づてで聞いた。町外にいる方は知らない人が多いので、十分な周知を心掛けてほしい。⑥

→ 新たな住居を把握し、確実にお届けできるように努めます。

14 案としては良いと思うが、JR は人だけでなく貨物も大量に運んでおり、直線でなければ走れないのではないか。JR と話し合っているのか。①

→ 土地利用構想（案）のルートで貨物や急行・特急が走行可能なことを JR と協議し、確

※意見末尾の丸数字は、P3 表の「意見分類」を表す

認しております。

15 国道 6 号沿いの宅地で一部地盤の崩壊が見られるが、活断層との関係はどうか。⑮

→ 地盤のずれは活断層によるものではなく、今回の地震によるものと思われます。

16 震災で失われた保育所や小学校について、どのように考えているか。⑦

→ 本日は土地利用構想（案）がメインのため、教育方針については記載しておりませんが、各戸配布させていただいた基本方針には記載しています。中浜小学校の生徒数は 59 名から 39 名となるため、1・2 年生、3・4 年生、5・6 年生が合同で授業を行う復学となります。保育所や小学校の今後の在り方については、このような状況やまちづくりの推移、住民の意向などを踏まえながら考えていきたいと思っております。なお、12 月にまとめる復興計画では、鉄道や道路だけではなく、教育、子育て支援など、総合計画となるものを策定していきたいと考えています。

17 復旧・復興には相当の金がかかる。優先順位をつけてやっていただきたい。⑧

→ 短期間ですべてを実行することは無理なので、優先順位をつけて進めます。

18 現在、名取市のアパートに住んでいるが、山元町に戻りたいと思っている。我々が想像する以上に問題があると思うが、早く戻ってこられるような対応をお願いしたい。⑧

→ 町としても早くもとの生活に戻れるよう、スピード感を持って取り組みます。

19 町外にいる方や仮設住宅居住者への情報発信をきちんとしてほしい。⑥

→ 情報発信の漏れがないように努めます。

20 土地利用構想（案）の基本条件で、「想定し得ない津波が起きた場合でも人的被害を最小限にとどめられる安全性を確保する」とあるが、各種施策を行ったあと、3/11 と同規模の津波にあった場合にどうなるのか示していただけませんか。自宅は現在、図の 2m 水深の位置にある。②

→ 今回の津波をとめるには 20m の堤防高が必要ですが、これは現実的ではないので 100 年に 1 回起きるような頻度の津波への対応を基本と、今回のような規模の津波に対しては避難の時間を確保することにより人的被害を最小限にとどめることを前提としています。そのための多重防御であり、防災緑地、二線堤、災害危険区域指定による建築制限を行うものとしています。現在津波シミュレーションの検討を進めており、この結果は改めて公表させていただきますが、県道の嵩上げについては、5m まであげると引き波で全壊してしまうので、3m くらいが現実的なものと考えています。

21 県道山下停車場線の沿道建築物が取り壊されているが、用地買収は怎么样了。⑮

→ 新駅を中心としたまちづくりでは新しい山下停車場線が必要と考えており、現在の県道は町道へ移管し、新県道により国道 6 号へのアクセス性を良くすることでバス交通などの利便性を高めていきたいと考えています。現道拡幅のための用地買収については、このような状況も踏まえ、対応していきます。

※意見末尾の丸数字は、P3 表の「意見分類」を表す

22 堤防についてはどのように考えているか。②

→ 100年に1回起こるような津波に対応できるものを考えており、今回のような津波については、減災・多重防御の視点を持って取り組むものとしております。

23 JR常磐線のルートを変更するより、原位置で復旧する方が良いのではないか。JRの社長も早期復旧を掲げている。①

→ JRは、亘理から新地までは内陸ルートでの復旧を考えています。これまでの沿線地域の方々には色々ご協力いただいたことに感謝するとともに、復旧にあたっては町全体をみて、新しいまちづくりを進めていきたいと思うので、よろしく申し上げます。JR常磐線の復旧を契機にコンパクトな市街地を形成し、人々が住みやすい交通体系を築いていきたいと思っております。

以上

○花釜・牛橋（③現在、牛橋にお住まいの方）9/3（土）16:00～

01 災害危険区域の考え方がよくわからない。③

→ まだ案の段階ですので詳細は決まっておりませんが、高盛土を行う県道の東側は住宅を禁止し、西側は宅地のかさ上げなど、一定の条件で建築を認めるものと考えています。いずれも新たな建物への制限であり、もともと住まわれている方については住んでいたとしても構いません。

02 JR 常磐線のルートが浜吉田駅から振られているが、山下駅から振れないか。津波防御となっている線路を山側に振ることは、町の掲げる安全・安心と合わないのでは。①

→ JR は二度と津波被害を受けない位置への復旧を考えていることから、このような計画としております。鉄道はもともと堤防機能とはとらえておりませんが、堤防構造とした場合、駅の両側に広がりのあるまちづくりが行えないというデメリットがあります。

03 JR 常磐線の山下駅から北側の既存の線路敷の利用はどのように考えているか。①

→ 北側は町道として、南側は県道としての利用を考えています。

04 安全・安心を掲げながら、浸水深 2m の山下駅北側の居住を認めている理由がよくわからない。この地域は防災集団移転の対象とし、そのうえでコンパクトシティとするのが良いと思う。③④

→ 既存宅に配慮するとともに、第二種、第三種の区域は、基礎や地盤のかさ上げにより一定の安全性が確保されるため、建築可能としています。

05 土地利用構想図（案）において、山下駅周辺の既存集落を示す楕円の区域にその北側の区域が含まれていないのは何か理由があるのか。⑮

→ 特にありません。

06 避難路はもう少し詳細に示していただきたい。⑭

→ 12 月の復興計画の策定向け、段階的に計画を詰めていきたいと考えておりますので、よろしく申し上げます。

07 JR 常磐線のルートは、新山下駅が図の位置であれば、こんなに振らなくても良いのでは。亘理町と協議しているのか。①

→ 設計条件を踏まえる中、既存家屋を回避したルートとしており、亘理町とは調整しながら進めています。

08 JR 常磐線も高盛土とすれば 3 重の堤防となり、より安全になるのではないかと。JR から言われたからといって引き下がってはいけない。①

→ 列車が脱線するのは浸水深 1.1m 程度と JR から聞いており、今回の震災で乗客を乗せた列車であれば大惨事になっていたと予想されます。このようなことから、JR は浸水の起きないエリアに復旧したいと考えています。多重防御は海岸の堤防、防災緑地、かさ上げ県道で行うものとしています。なお、今回のような津波に対しては 20m 程度の高さ

※意見末尾の丸数字は、P3 表の「意見分類」を表す

の堤防が必要であり、現実的ではないため、100年に一回の津波に対応できるものとして
います。すべてを止めるのではなく、減災、つまり避難する時間を確保するための多重
防御と考えています。県道の嵩上げを行っても県道から西側への浸水を止められないの
で、JRは原位置復旧は考えていません。

09 堤防を造っても津波を100%防げるわけではないので、多重防御の考え方、そしてJR
常磐線の移設は理解できる。①②

10 移転にはお金がかかる。高台に住宅ができて結局はお金がいる。そのあたりはどのよ
うに考えているか。④

→ 災害危険区域の第一種は防災集団移転の対象としていますが、本日の資料で紹介して
いる制度は現行のものであり、町としてはこれを改善するため、防災集団移転と区画整
理を組み合わせた新たな制度の要望や第二種及び第三種についても建築制限により一定
の負担が生じるので、その支援策が必要と考えています。

11 子どもたちの心のケアが大事だが、どのように考えているか。⑦

→ 特に中浜小学校、山下第二小学校は大きな被害を受けており、児童のショックは大き
なものと思います。授業中に突然泣き出したり、一人になると不安になるなどの報告も
受けています。被災後、愛媛県、群馬県の教育委員会の臨床医師に診ていただくとも
に、先生方へも児童の相談に乗れる体制づくりなど、研修会を実施しており、今後も継
続していきたいと思っています。何かありましたら連絡ください。

12 基本方針ができてから説明会ではなく、まず被災者の意見を聞いてからではないのか。
6~7月にアンケートが行われているが、その結果も公表されていない。亘理町はでてい
るが。⑥

→ 限られた時間の中、広く住民から意見を聞くために復興会議やアンケート、各種団体
へのヒアリングを実施し、復興計画を作成してきました。これをベースにみなさんの意
見を聞きながら変更も含めて対応したいと考えています。なお、アンケートの結果は7
月の有識者会議に出しており、会議資料及び議事録もホームページに掲載してありま
すが、周知の仕方については再度検討したいと思っています。

13 JR常磐線の整備に3年かかり、さらに用地取得に時間がかかるとなると、亘理町や名取
市、岩沼市に移転する人が増えるのではないかと。本計画が実現する頃には若い人がい
なくなってしまう。現実を見据え、柔軟かつスピーディーに対応していただきたい。①

→ 代行バス増発の要望や町民バスぐるりん号の充実、民間バスの活用など、その他の交
通手段について検討します。

14 JR常磐線や県道などについて、亘理町と協議していると思うが、その情報が伝わってこ
ない。①

→ 常時、亘理町と調整をしながら進めています。今後、広報などによる情報提供に努
めます。

※意見末尾の丸数字は、P3表
の「意見分類」を表す

15 大まかでも良いがスケジュールはいつ頃示されるのか。⑧

→ 本日は土地利用構想（案）をご確認いただき、今後、これをベースに個別の事業を関係機関と調整してスケジュールを定めていきます。現行制度だけでは町民の負担が大きいため、新制度の要望もしておりますが、これらも含め、12月末の復興計画でお知らせできるように進めたいと思います。なお、災害危険区域の指定などにあたっては、個別の説明会なども考えておりますので、よろしくお願いします。

16 なかなか具体的な提案が出てこない。これでは安心した生活ができない。⑧

→ 未曾有の災害であり、現行制度での対応だけでは限界があることから新制度の提案を行っており、そのために時間がかかっています。12月には事業スキーム、補助制度も固まっていると思うので、それまでお待ちください。

17 JR常磐線自体の安全性は良いが、福島原発をどのように考えているか。①⑨

→ JRは、常磐線と仙石線は復旧に取り組むと明言しているので、警戒区域以外の区間については責任を持って進めていただけたらと思っています。

18 自宅が災害危険区域の第二種に入っているが、防災集団移転は可能か。③④

→ 防災集団移転は、災害危険区域の第一種を対象としていますが、第二種、第三種で移転したい方についても町の支援制度で助成をしていきたいと考えています。

19 災害危険区域の第一種、第二種、第三種の詳細な区域を示していただけると一歩踏み出せるが、いつ頃示していただけるのか。③⑧

→ 条例を定めて手続きを進めるため、10月末か11月頃になると思います。P5はイメージとして浸水実績を示したものですので、実際の区域は道路などのわかりやすい線で定める予定です。

20 野田内閣が発足し、増税が懸念されるが被災者の立場で考えてほしい。移転に際し生じる不動産取得については減免するなどの配慮が必要である。④⑩

→ 被災地限定の減免策など、今後の税制の在り方についても検討します。

21 県道の牛橋歩道の拡幅工事は生きているのか。⑮

→ 県道は新たなルートについて整備するものとしていますが、避難指示区域を解除したので現道の復旧も必要と考え、県に整備をお願いしました。但し、歩道の取り付けなど、プラスαについては行いません。

22 先日いただいたアンケートは9/2までに投函とあったが、この説明会があるのであれば、これが終わってからのの方がよかったのではないかと。⑥

→ そのようにできなかったこととお詫びします。9/2までとさせていただいたのは、全体のプランニングと合わせ、国に対し、山元町で被災された方がどれくらい災害公営住宅が必要かを早期に示す必要があったためですが、アンケートはこれが最後ではなく、今後も実施していきたいと思いますので、よろしくお願いします。

23 避難指示区域が解除されたため、自宅のガレキを処理していたらボランティアから声をかけられた。ボランティアにお願いする場合は町を通した方が良いのか。⑩

→ 避難指示区域の解除にあたり、東北電力には電気の復旧をお願いしています。また、家財の清掃に必要な水道の復旧も進めており、県道の西側は8割ほど復旧しているので、この場を借りてご報告させていただきます。本題のボランティアにつきましては、町で社会福祉協議会災害ボランティアセンターを設けているので、まずはこちらにご相談ください。詐欺的な行為を行うボランティアもいるとのことですので、ご注意ください。

24 町民バスぐるりん号をいつも利用しているが、アップルラインは通り過ぎるだけである。新しいまちをつくるのであれば、喫茶店など立ち寄れる施設をつくり、活性化を図ってほしい。⑪⑬

→ ストロベリーラインだけでなく、アップルラインもアピールしていきたいと思います。リンゴは、現在は収穫物の配送がほとんどですが、農産物の直売所や加工施設を設けたいと思っています。通年販売できるような保存技術の取り組みなど、町の観光の目玉としても考えたいと思っています。12月までにまとめる復興計画では、道路や鉄道だけでなく、総合計画的なもの、産業振興なども盛り込むため、皆さんのアイデアをお聞かせください。

25 町民バスぐるりん号を日曜日に運行していただけると買い物に便利である。⑩

→ JR常磐線が復旧するまでの足として、また被災者の日常的な足としてぐるりん号の充実を検討していますが、日曜日の運行についても考えたいと思います。

26 子供が通学の関係で町外に住んでいる。子育て世帯のためにも、JR常磐線の早期復旧をお願いしたい。①

→ そのように努めます。

27 防災集団移転促進事業による買取は、災害危険区域であることを考慮してとあるが、今のローンも残っており、被災者のことも考えた救済を行ってほしい。③④

→ 皆さんの負担が減るように、引き続き検討します。

28 浸水区域は町営の太陽光発電公社としたらどうか。⑫

→ 自然エネルギーを活用したエコタウン的なまちづくりは、今回のような災害時にも有効なことから、町としても積極的に考えたいと思っています。これから建設を行う災害公営住宅についても自然エネルギーを取り入れていきたいと考えています。これらの施策を積み重ね、魅力あるまちづくりを行い、まちの活性化につなげていきたい。

29 復興計画でいちづけた計画について、何を優先してどのように進めるか、次回で良いので教えてほしい。⑧

30 避難指示解除区域となっているが、プレハブの建設は可能か。⑮

→ 建物の用途によります。仮設住宅的に使われるのであれば建築確認申請が必要となりますが、発災から2年間は申請なしでも可能ですが、すでに半年経過しているので、1年

※意見末尾の丸数字は、P3表の「意見分類」を表す

半となります。詳細については別途ご相談ください。

31 家の中にガレキが散乱しているが、どうすれば良いか。⑩

→ 町で責任を持って処理させていただきます。

以上

01 まず、資料の「よくある質問」を簡単に説明いただきたい。⑮

→（資料より説明。）多重防御の効果については、今回の津波規模に対するシミュレーションを行っておりますので、結果がでましたらご説明させていただきたいと思っております。なお、県道の嵩上げについてですが、5mとした場合、3mとした場合の検証を行っておりますが、効果に大きな違いがなく、また5mの場合は引き波により法尻に損傷が生じることが懸念されています。

02 全体像はわかったが、住民にはっきりわかるよう地区名を表示してほしい。中浜は住めない土地で土地も買ってもらえないとのことだが、宅地開発地への移転などの手当は考えてもらえるのか。③④

→今後の居住については、被災者の皆様にアンケート票を配布し、現在、意向の把握を行っているところです。町としては、坂元や山下の集落周辺、役場周辺、宮城病院周辺などに新たな宅地を考えておりますが、詳細は皆様の意向を踏まえてこれから詰めていくところです。災害危険区域の指定については、あと1か月くらいで詳しい説明をさせていただけると思っております。住宅地開発については、例えば農用地で行う場合、需要に基づき農振除外を行う必要があることから、現在のアンケート結果を一つの目安と考えておりますが、あくまで現時点の意向と捉え、今後の状況の変化に応じて調整を行うものと考えておりますので、よろしくお願ひします。

03 頑張ろうは良いが、もっと具体的なものを示していただきたい。⑧

→本日は、町の復興計画の土地利用の方向性を示させていただきました。今後、国の補助制度を活用したり、町民の合意を得ながら具体的なアクションを起こしていきます。今回の住民説明会の皆さんの発言を踏まえ、計画の策定作業を進め、具体的なものを早期に示させていただきます。

04 土地利用構想（案）についての説明があったが、未来のまちづくりと感じた。復興よりまず復旧。9月に仮堤防完成と聞いたが何m完成したのか。事故が懸念されるマンホールの突出部に砂利を敷くとか、水道の復旧など、まず、これらを早期に行ってほしい。具体的な復旧のスケジュールを示してほしい。⑩

→本日の説明会は、復興に向けた土地利用構想（案）の説明の場としておりましたが、ご意見を受け反省しております。まず、復旧の状況についてご説明させていただきます。仮堤防は国で復旧作業を進めており既に2mで完成しております。中浜・磯については、笠野海岸を過ぎた南側も2mで完成しております。避難指示の解除にあたり、東北電力により電力の復旧作業を進めておりますが、これは安全をお知らせする防災無線を使えるようにするためです。合わせて上水道の復旧も行っております。道路の陥没も事故の原因となるのでその確認作業を行っているところです。目標は10月1日に避難指示区域の解除が行えるよう、電気、水、無線の復旧を目指しております。もうしばらくお待ちいただきたいと思ひます。このような説明をこれまで行えず、ご迷惑をおかけしました。

05 防災集団移転で移転した場合、坪面積は100坪までとのことだが、農業に携わっている

人は納屋や農機具も必要であり、また人数分の車庫も必要と思うがこれで足りるのか。家屋だけ移転し、離れて営農を行うことは現実的でないと思う。④

→ 防災集団移転促進事業の現行制度では、補助金が出る範囲が100坪となっていますが、これでは足りないと聞いておりますので、現在、国に制度改善を要望しているところです。防災集団移転、災害危険区域の設定、安全な宅地への移転については、職住分離の思想も入っています。また、農地の集団化による共同管理などの工夫も合わせて検討しております。100坪は仙台では豪華だが、この地域では不十分ということもありますので、地域性を踏まえた制度の緩和策の要請を行っているところです。

06 震災前からローンを抱えている方の移転は二重ローンとなるなど大きな負担であるが、補助などはあるのか。④

→ 住宅を建て直したい方もみえると思います。これまで町外からの転入者は町の定住促進事業で助成を行ってきましたが、今後は町内の人にとどまっていただくため、引き続き住んでいただけるような助成も検討しておりますので、よろしくお願ひします。

07 自宅流失後、基礎が残っているが町で撤去していただけるのか。⑩

→ 既に避難指示を解除している山下地区などにおいては、建物及び基礎の撤去について、意思確認を行いながら進めています。坂元地区についても同様に、意志確認させていただきながら町で責任をもって対応致します。

08 千年に一回の津波が来ても建物が残り、私も生き残った。それなのに、そこに住めないのはおかしいのではないか。③⑮

→ 震災により建物が傷んでいない方についても長期避難地区に指定し、仮設住宅に住んでいただいている方がみえます。これは、自宅は損傷がないが、周りの道路や橋が壊れていたり、水道や電気のライフラインが寸断されていることによります。現在、電気や水道の復旧努力をしており、居住が可能な状況になりましたら長期避難地区の解除をしたいと考えています。長期避難地区を災害危険区域の第一種とするかどうか、また、仮に周りが住めなくなった場合のインフラ整備をどうするか、についての検討も行っていますので、1か月ほどお待ちいただきたいと思います。なお、復旧は継続して早急に進めますので、よろしくお願ひします。海岸部の復興については、磯浜漁港は従来の漁港機能に合わせ、町で唯一泳げる海水浴場でもあることから、海を利用したレクリエーションゾーンとして活用するものとしています。

09 復興も大事だが、復旧を早くしてほしい。定年後、農地を取得し営農しているが、農地の復旧が進んでいない。農地のガレキ処理の状況が役場に行かなければわからないのはおかしい。確定していないことでも町の方針を国、県に訴えていくことが必要である。いまのままでは秋の作付けに間に合わないの、早急に対策を行ってほしい。⑩

→ 作付けにあたっては塩害対策、用排水路の復旧の他、津波で入ってきた硫化鉄の除去が必要であります。硫化鉄は、酸化して硫酸と鉄に分離するため、鋤を入れる前にその位置を特定し、置換する必要があります。どこから復旧するかを県と相談しているところですので、もうしばらくお待ちください。農業収入のない方に対し、ガレキ処理などによる収入の取り組みを個々の農家に案内させていただきましたが、不十分なところが

※意見末尾の丸数字は、P3表の「意見分類」を表す

ありましたことをお詫びし、今後、情報の伝達を徹底したいと思います。

10 JR 常磐線の新ルートが国道 6 号の上を通るが、この案は町からか、JR からか。3 年で整備とのことだが、本当にできるのか。2 時間もかけて仙台に行くような環境では若い世代は出て行ってしまう。現ルートで嵩上げすれば、多重防御となる。土地利用構想（案）の坂元駅周辺に既存集落、新しい集落とあるが、中浜からの要望はどのように考えているのか。田、畑、宅地、緑地を早く線引きしてほしい。現時点で 2,000 人ほど町外に出ており、このままでは益々町外転出が増え、高い税金がさらに高くなり住みにくいまちとなる。十分に町民の意見を聞いて対応していただきたい。①⑥

→ JR から、ルートは浸水エリアを通らないこと、工期はルートや構造によらず 3 年と聞いています。現ルートで嵩上げすると用地買収が必要となりますが、沿線は宅地が多いため、農地や山地を通る新ルートに比べ、用地取得費がかさむとともに、用地交渉に時間がかかるものと思われます。高架にしても管理用の側道が必要となるので、やはり用地買収が必要であり、また高架は事業費が大きくなります。JR は民間会社であり、工事費を安くする方向で調整しております。多重防護になれば嵩上げが低くても良いのかもしれませんが、堤防、県道の嵩上げ、防災緑地の整備などができるまでに 5 年はかかるため、その間、JR 常磐線の整備ができないものとなってしまいます。これでは人口の流出が止められないので、早期整備を目指し取り組んでいます。また、山側で鉄道整備をすると造成工事で土が出るため、この土を海側の多重防御に使うという地域内活用も念頭においていることをご理解いただきたいと思います。

11 JR 常磐線は農免道路を利用したらどうか。JR の用地幅は 20m 程度あるが、そこは道路として活用すれば良い。①

→ そのような案も考えておりました。鉄道跡地を道路とする考えは同じです。現鉄道用地を県道、町道とし、それを原資に鉄道用地を取得するイメージです。一部の農地についてはほ場整備により道路用地を生み出すことも検討しております。いずれにしても、用地買収に時間がかからないよう、色々な制度を活用したいと思っています。用地取得後完成まで 3 年かかるので、その間、町民の足の確保を充実するため、浜吉田駅に寄らないで行けるような、特急で岩沼に行けるようなものを JR と協議するとともに、民間交通事業者による足の確保も含め、考えていきたいと思っています。

12 説明は半分ほど理解したが、私たちはどうすれば良いか。仮設は 2~3 年、支援金は 3 年と期限があるが、その中で復旧がいつなのか。5 年、10 年かかるのでは人が出て行ってしまふ。特に農家の方は収入がないので急いでほしい。ガレキの処理もどうしていいかわからない。検討も良いが、いつ頃どうなるかの目安を示してほしい。⑧⑩

→ スピードが大切なことは十分承知しておりますが、今回は未曾有の災害であり、特に山元町は JR 常磐線が全線にわたって壊滅的な被害を受けるという大きなハンディを持っています。将来のまちづくりと、2~3 年先のまちづくりをリンクさせることが重要と考えています。国や県の支援を得るには、まず計画をまとめないといけません。現在の制度では町の負担が大きすぎるため、新たな制度検討も必要であり、時間がかかっております。人口流失を防ぐため、特区制度など皆で知恵を出し合い、また応急復旧も進めながら 12 月までにまとめ、国の予算に計上したいと考えています。アンケート調査も

※意見末尾の丸数字は、P3 表の「意見分類」を表す

行いながら計画を早くまとめ、皆さんの負担を少しでも早く軽くしたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。町民、職員、そして支援をいただひている宮城県、札幌市、都市再生機構などが「チー ム山元、心はひとつ」の精神で頑張りたひと思ひます。

以上

○山下・浅生原・高瀬・合戦原：9/6（火）18:30～

01 津波に対してはかなり検討されているが、地震に対する検討が薄いのではないかと。地震により宅地造成地で地滑りなどを起こしているところもある。安全・安心なまちづくりには、地震に対する地盤検討も必要である。⑭

→ 地震対策も重要であり、ご指摘を踏まえた対応が必要と考えています。地盤対策については、最新の基準を踏まえて行っていきたいと思います。

02 宮城県で最も福島原発に近い山元町では、その対策が必要ではないかと。原発による被害は土地価格の下落や農作物への影響が大きい。自然災害は対策に限界があるが、原発は人災であり対応可能である。まずは福島原発事故に対する放射線濃度の徹底した調査を行い、最小限の被害とするための除染対策を行ってほしい。また、そのような取り組みの姿勢を示すことが、マイナス面をめぐうものと思う。⑨

→ 原発対策については、今後も検査体制を強化していきます。放射線物質は目に見えないことから油断大敵ですが、一方、正しい知識や理解も不可欠なので、これらを見極め適切な対応をしていきたいと思います。

03 宮城病院周辺を医療福祉地区としてまちづくりを進めるとのことだが、本腰を入れて他に負けない良質なサービスを提供していただきたい。このような取り組みは町の発展につながり、雇用の場にもなる。⑦

→ 貴重な資源である宮城病院を核として、発展していきたいと考えています。なお、宮城病院の清野病院長は、有識者会議の一員として、復興計画の策定にご協力いただいております。

04 企業誘致で雇用確保とあるが、亘理町でも失敗しており現実には難しいのではないかと。自治体で宅地開発を行い、例えば子ども 2 人以上で地元の業者を使って自宅を建築する人には無償で宅地を提供するなど、人口増に向けた住民誘致施策を検討してほしい。⑬

→ 定住促進事業はこれまでも行っておりますが、これは町外の人を対象のため、町内の人の定住促進施策を現在検討しています。

05 建物のセットバックによる道路拡幅とあるが、山下駅周辺でこのような規制を行うことは負担にならないか。2～3m道路幅員を広くしてもかえって津波の速度が早くなるだけではないか。⑭

→ セットバックは山下駅前をイメージしていますが、これは、車両がスムーズに通れなかったり、消防車が通れない状況を改善するために地区計画で安全なまちづくりを進めるものと考えています。

06 海岸部に震災モニュメントとあるが、流失された家屋をそのまま残すなど、金をかけずにやると良いのではないかと。国の補助があるとしてもそれは国民の税金なので、有効に使ってほしい。ゼネコンなど、町外の業者が喜ぶようなものではなく、町民のための事業としてほしい。⑮

→ モニュメントにお金をかけて箱物をつくることは考えていません。今回の震災で得た

※意見末尾の丸数字は、P3 表の「意見分類」を表す

教訓を、お金をかけずに後世に伝えるものを考えていきたいと思っています。

07 いちごを生産者で大きな被害を受けたが再生を目指して頑張っている。海岸部であればどこでも津波の可能性があるので、その地域ならではの危機意識をもって暮らすことが大切だと思う。千年に一回の津波に対しても、いかに避難するかを踏まえておけば豊かに暮らせると思う。⑭

→ ありがとうございます。津波対策はハードだけでは限界があるので、町民の皆様の危機意識を高めていただくなか、ソフト対策も重ね、安全・安心なまちづくりを進めていきたいと思っています。

08 農作物を生産する者としては放射能が気になる。私のところは個別に検査をし、検出されなかったので自信をもって生産できる。このような数値的データがあれば安心して営農できるので、町としても数値のチェック体制をもっといただきたい。このような取り組みが住みやすいまちづくりにつながると思う。⑨

→ 原発対応、個人的に大変ご苦労されているとのこと、誠にありがとうございます。町としても良質な測定器を購入し、検査体制を強化して進めていきたいと考えております。

09 防災集団移転ですが、町が用地取得・造成とあるが、これは今から行うのか。また、移転費用について離農する場合は 237.2 万円、そうでない方は 78 万円とあるが、この違いは。④

→ 現在、被災者にアンケート票を送っており、移転するならどこが良いか、土地を購入するのか、町営住宅が良いか、などを聞いています。これらを確認したうえで必要となる住宅地面積を算出し、新しい住宅地を検討したいと思っています。ご質問の移転先については、基本的に町で買って整備を行います。なお、被災された方で離農する方の限度額についてですが、これは現行制度で移転される方の負担が多く、また新築後間もなく被災され債務を抱えている方などに配慮し、できる限り負担が少なくなるような制度要望を行っているところです。これらの状況は分かり次第、お知らせしたいと思います。

10 坂元地区は国道 6 号を超えて水没したが、国道 6 号を移動する考えはないか。⑭

→ 国道 6 号の移動は難しいですが、嵩上げについて国と調整したいと考えています。

11 この計画はいつ頃までに策定されるのか。⑧

→ 現行制度では対応できないものも多いため、新たな補助制度の要望や特区制度も視野に入れており、そのため少し時間を要しますが、12 月には示せるよう調整しています。

12 土地利用構想（案）で JR 常磐線のルートは理解できるが、浜吉田駅が原位置のため新山下駅までの区間が大きく曲がっている。被害のあった浜吉田駅も山側に移設し、直線とすることはできないか。JR や亘理町と相談して後世に安全なものを残してほしい。①

→ JR は二度と浸水被害を受けないよう浸水エリアを回避したり、盛土構造や高架構造での復旧を基本としています。亘理町からのルートについては、これまで JR や亘理町、県などと協議を行ってきました。そのなかで町や浜吉田駅周辺の方の意向などを踏まえ、浜吉田駅はそのまま、これを起点に高架でルートを決めているところですが、今後も

※意見末尾の丸数字は、P3 表の「意見分類」を表す

亘理町と協議をしながらルートの検討をしていきたいと考えています。

13 原発による放射能対策を積極的に位置づけ、打開していく姿勢を示すことが子育て世帯の流失の歯止めになると思う。栗原市は学校の除染を積極的に行っており、角田市は500万でセシウム検査機器を購入すること。河北新聞で先日発表された2箇所の高濃度地区は、推測だが宮城病院の北側あたりと思われ、除染などへの積極的な対応が求められる。町のホームページではいまだに古い安全基準値を使っていることから、早期改善が必要である。しっかり対応しないとリンゴの風評被害も懸念される。⑨

→ 文科省による新たな安全基準値、方針を踏まえ、総務課、教育委員会、保健福祉課など関係各課と連携をとって改善策を推進しておりますが、ホームページの更新がされておらず、大変申し訳ありませんでした。放射能物質の除染にあたり、水による除染は下流域への被害の拡大につながり、また汚染した土は町外に出せないのも、新たな汚染地が生じることが懸念されます。子どもたちの安全確保を最大限に考えて除染を行うとともに、除染が難しいところは立ち入り禁止にするなどの対応をしていきたいと思えます。

→ 除染は水で流すのではなく、掘って埋めれば良い。その費用は東京電力にお願いすれば良い。

→ 説明が足りませんでした。山下小学校のように局所的な除染はそのように対応し、安全基準値内を保っています。今後も皆様のご指導に基づき対応していきたいので、よろしく申し上げます。

14 民間賃貸に入居しているが、事務処理が遅れているようで貸主に家賃が入っていない。県や町の事務処理の状況について教えてほしい。⑤

→ 民間賃貸の借り上げについては、県から民間の家主に家賃を支払うことになっていますが、県に確認したところ遅れているようです。仮設住宅扱いの民間住宅にお住まいの方にとって家賃が支払われていないのは心苦しいと思いますので、早く是正されるよう県に要望します。

15 仮設住宅は2年を超えての居住が可能であるが、民間賃貸住宅は2年までである。私は1年契約なので現在新たな住まいを探しているが、最近はこのような状況を察してか、値上げしているところが多くなっているのも、土地利用構想図(案)に示された宅地供給を早く行ってほしい。スピード感を持って取り組んでいることは承知しているが、鉄道の復旧、道路の整備、宅地造成を早急をお願いしたい。⑤⑧

→ 新たな住宅地については、被災者の方へのアンケート調査を実施しておりますので、この結果を踏まえ開発地を検討し、公営住宅などの整備にも取り組んでいきたいと考えています。なお、仮設住宅の民間賃貸についても期間を延長していただけるよう、県に確認いたします。

16 人の移転は大変なことであるが、皆で協力し、一人一人の知恵を活かしてまちづくり、国づくりを行ってほしい。⑮

→ 良いまちづくりに向け、まい進したいのでご協力よろしくお願いします。

以上

※意見末尾の丸数字は、P3表の「意見分類」を表す

01 JR 常磐線について、用地取得期間を含めると4,5年はかかると思うが、それでは人口の町外流失が止められないのではないか。なるべく早く整備してほしい。①

→ 整備は3年でできることをJRから聞いています。新ルートの用地となる農地の部分は、硫化鉄やガラスの破片などを除去するため、ほ場整備で農地の復旧を図るとともに、換地手法により鉄道用地を生み出すことを考えています。これらの整備は通常3年かかるところを、特区でできる限り早くできるように調整しています。なお、鉄道復旧までの間、通勤・通学にご不便をおかけするため、代行バスの充実や民間バス会社による仙台、岩沼への直行便の導入など、各社と調整しながら利便性の向上に努めます。

02 JR 常磐線のルート設計にあたり、隣接する亶理町や新地町との協議は行っているか。①

→ JR 常磐線の沿線の自治体とは協議して進めております。

03 立派な復興案を示していただいたが、財源はどのように考えているか。町の負担が増え、税金が高くなることはないか。⑧

→ 鉄道については早期復旧に向け、JR 及び町から補助制度の創設を要請しております。また、JR 跡地を県道とすることで新ルートの用地取得費を捻出するなど、各事業主体が円滑に取り組めるよう配慮しています。その他、集団移転も含め、現行制度の助成は厳しい面があるため、被災者の方の負担が減らせるよう要望しております。12月に定める復興計画では、事業主体、事業手法、事業期間、事業費をお示しし、着実に進めることをご説明する機会を設けたいと思います。

04 JR の代行バスは大変時間がかかる。坂元8時42分乗車で亶理9時半着は遅い。ぐるりんバスによる運行ができないか。また、現在の坂元バス停の位置も不満である。⑩

→ 坂元バス停の位置は坂元支所が理想ですが、道路が狭隘でバスが入れないため、現在の位置になっております。ご指摘を踏まえ、バス停の位置の調整をしたいと思います。なお、現在のバス停周辺は暗いことから河川国道事務所に街灯の設置を要望しております。運行時間については、浜吉田駅に寄る分時間がかかっているため、亶理駅への直通便とするなど、県の企画部と一緒にJRに働きかけを行っています。

05 集団移転の補償で離農する場合は237.2万円とあるが、このあたりを詳しく教えてほしい。④

→ これらの補償額は現行制度のもので、現在新たな制度要望をしているところです。宅地の規模が小さいという話も聞いておりますので、山元町で適用できるルールを作っていきたいと考えております。

06 JR 常磐線のルートは大賛成であるが、宮城病院の西側などが前方後円墳の群落など文化財があるので、十分留意して位置を設定していただきたい。①

→ 鉄道ルートの設定は、家屋や文化財を外すように配慮しています。どうしても文化財にかかってしまうときは、早く調査ができるよう、県の文化財保護課と調整しているところです。なお、復興計画は12月策定としていますが、早く計画を固めJRに早く測量

作業に入っていたきたいと考えております。

07 JR常磐線のルートで、坂元駅を100m前後にずらし高瀬などとすると用地買収が円滑に進められると思うので、ご検討いただきたい。現在の状況は通勤に大変不便なので、できる限り早く整備してほしい。①

→ 本日の案で確定ではありませんが、坂元駅の利用は両側からという考えを持っています。津波被害を抑えるため、多重防御として堤防や防災緑地の整備、県道の嵩上げなどを計画していますが、これらに必要な土をJR常磐線の新ルート造成工事で発生する土を利用することで、コストを抑えるということも考えております。また、新ルートはできる限り家屋にあたらないよう、かつスピードに影響がないような線形としていますが、これがベストかどうか、技術的な点も踏まえ検証したいと考えています。なお、用地買収が整えば、路線延長に限らず3年となっていますが、亘理駅から山下駅まではできるだけ早く復旧したいと考えています。

08 坂元中学校周辺の道幅が狭いので、改善してほしい。⑭

→ 中学校までの通学路はしっかり整備していきたい。

09 JR代行バスのバス停は、冬に備えプレハブとしてほしい。⑪

→ JR常磐線の開通まで3年プラス一定の時間がかかるので、バス停の上屋を検討します。

10 相馬市や仙台市などは、メガソーラーなどの自然エネルギーや次世代エネルギーの誘致を提案している。山元町にそのような考えはないか。⑫

→ 本町もエコタウンを目指し取り組んでいます。県道相馬亘理線から東側については居住に適さない土地で集団移転する集落もありますので、そこに太陽光パネルを敷き詰めるとか、メガまでとはいきませんが、今回のような災害時やいちごハウスへの電力供給を考えています。

11 新しく購入した消防車が津波で流されたのち、県外から支援の車両をいただいたと聞いた。このあたりは消防が弱いと聞いているが、町としてはどのように考えているか。⑭

→ ご指摘の通り、新しい車両は流され、県外から車両を提供していただきました。このようなことを町のホームページでお知らせし、安心してもらえるように心がけます。なお、消防の充実は大切なことであるが、人件費や車両の設備等、予算が伴うことなので、協議して進めていきたいと思っております。

12 私は中浜区に住んでいたが、事情で仮設住宅に入らず現在名取市にいる。安心して暮らせる住宅・宅地の供給に大変期待しており、未利用宅地の活用など、どのようなものが詳しく説明をお願いしたい。④⑤

→ (中浜区で適用可能な防災集団移転促進事業の他、災害公営住宅について配布資料に基づき説明。) 防災集団移転促進事業及び災害公営住宅は、補助率など助成制度の改善を要望しています。災害公営住宅は譲渡例もあり、戸建てもあるのでご承知おきいただけたらと思います。未利用宅地は、既存の民間開発の空地を利用させていただくことをイメージしております。

※意見末尾の丸数字は、P3表の「意見分類」を表す

13 居住地と農地を分ける案となっているが、家事ができず、また通勤も不便なことから継続できないと思う。また集団移転の土地は最大 100 坪とのことだが、それでは農業資材や農機具の収納ができない。④

→ いちごハウスの温度管理など、農地が自宅に近い方が良いというのは認識しています。沿岸部にある農地は、堤防と防災緑地には守られるが、県道相馬互理線の防御からははずれるので、こちらで栽培されている方は県道より西側の安全なところに移転していただきたいと思っています。また、農地の集団化と農業機械の集団化を図りながら安心できる居住地の提供も検討しております。

14 宮城病院のところにぜひ新駅をお願いしたい。宮城病院は山元町の貴重な資源であるとともに、高齢社会を踏まえ、無人駅でも良いので積極的に取り組んでいただきたい。①
⑦

→ JR 常磐線のルートは様々な観点から検討してきました。大胆な発想として、宮城県病院を核とし、ここに設置される新駅周辺に集団移転を行うことなども考えていました。山下駅、坂元駅がある中、宮城病院に新たな駅を設置する際、懸念されるのは駅間距離が短いことです。そのため、本計画では国道 6 号とは別に山下駅や坂元駅にアクセスする道路の整備を考えております。さらにぐるりんバスの強化や無料運転の継続により、利便性の向上を図ります。

15 まず骨格となる JR 常磐線を固め、住宅地などの肉付けはそのあとで良いのではないかと。JR 常磐線の早期復旧は先日の有識者会議でも確認された。新ルートについてはこれまで国や県、JR と調整してきたと思うが、百人の意見を聞いていたらまとまるものもまとまらない。①

→ リーダーシップをとってしっかりやれ、とのお言葉と理解します。大変な状況での復興計画の策定ですが、できる限り町民の皆様の意見に耳を傾け、最大公約数の対応をしていきたいと考えております。地区によって反応も違うし、それぞれの思いや利害もありますが、このような意見交換会を重ねることで、誤りがないように復興計画を取りまとめたいと思っていますので、よろしく申し上げます。

16 子育て世代の多くがすでに町外に移転している。JR 常磐線の整備に 3 年以上かかると、子どもが高校生になると町外に移転する、という流れがとめられないのでは。現行ルートであればもっと早く復旧できるのではないかと。浜吉田駅も浸水被害を受けたが原位置で復旧するものとしているし、山下駅も残っており、また駅周辺の居住も始まっていることから可能では。JR の二重投資も財源をねん出することで対応できるのではないかと。①

→ ルートは色々検討してきました。JR は二度と津波被害を受けたくないという前提があります。多重防御ができれば良いのではと思われるかもしれませんが、堤防や防災緑地、県道の嵩上げができるまで 5 年はかかると思います。それから原位置で鉄道の復旧を行ったのではかなり時間がかかってしまいます。現行ルートで高架や盛土とする案も検討しました。高架は事業費が 45 億円/km となり、これは町の単年度の一般会計予算とほぼ同額です。盛土の事業費は 18 億円/km ですが、盛土とするとその底辺の幅が 30m 程度

※意見末尾の丸数字は、P3 表の「意見分類」を表す

必要となり、現鉄道用地幅が 8m であることからこれを差し引いた 22m 分の用地取得が必要となります。なお、高架の場合も管理用の側道が必要となることから、用地買収は必要となります。これらの用地は市街地部分を通るため、新ルート of 農地や山林と比べ、用地取得交渉に時間がかかるということも懸念されます。また、開通区間が山下駅までとなると、現在亘理駅が担っている交通結節点機能を現在の山下駅に確保する必要があるため、新たに用地を取得し、駅前広場を確保する必要もあります。代行バスの起終点は、復旧した路線の南端部となるからです。また、先ほども述べました通り、新ルートを山側で行うことにより、多重防御の実現に必要な盛土を確保する意味もあります。このように安全性やスピード、コストなどを総合的に検討した結果であることをご理解いただけたらと思います。

以上

○新浜・笠野：9/8（木）18:30～

01 交通インフラ、ポテンシャル、キャパシティの意味を教えてください。⑮

→ 交通インフラは鉄道や道路など交通の基盤となる施設、ポテンシャルは潜在的に持っている能力、キャパシティは許容量です。

02 漁業のことが書かれていないのではないかと。⑬

→ 本日はゾーニングや土地利用を中心としているため記載しておりません。震災復興基本方針にはホッキ貝や水産加工などを記載しており、これらを復興計画に反映させたいと考えています。

03 JR 常磐線の用地取得はどれくらいの期間、費用を考えているのか。原位置での高架、盛土と比べてどれくらい違うのか。①

→ 復興計画は12月までに策定するものとしていますが、JRに早くルートを示し、測量、用地買収にかかりたいと思っています。測量は年度内測量を目指しています。用地費はJRが負担しますが、県道相馬亘理線の新ルートをJRの既設線路敷を活用することで、事業が円滑に進むように考えています。

04 JRは「津波被害のない安全なところでの復旧を前提としている」とのことだが、新地町役場からはそのような考えはないと聞いた。どちらが本当か。①

→ JR常磐線の新ルートは、7月に東北運輸局、新地町、相馬市、亘理町との会議で調整したものです。新地町には、先日も説明会を行う前に調整をさせていただいたところです。計画は常に動いているため、新地町で聞かれたタイミングの違いかもしれません。

05 県道相馬亘理線を盛土とすると、そこに繋がる道路は坂道になるが、極力県道につなげ、アクセスを確保してほしい。②⑭

→ 県道の高さは、現在行っている多重防御のシミュレーションにおいて、3mとしても、5mとしてもあまり変わらないこと、5mを超すと越流時に法尻がえぐられることなどから、3mを基本と考えています。なお、県道への各道路の取り付けは、斜めの坂による接続を考えていますが、すべての道路が県道に取りつくかは今後の検討となります。なお、シミュレーションの結果は改めてお示しする場を設けたいと考えています。

06 基本方針を具現化するための予算を教えてください。また、国、県、町の財政負担の割合はどれくらいか。絵に描いた餅とならないよう、しっかり詰めてほしい。⑧

→ 国の概算要求時期が9月にずれ込んだことなどから現段階では具体的に示せないため、もう少しお待ちください。これから国の基準もでてくるので、きちんと積み上げをして整理していきます。なお、このような状況は山元町だけではないことをご理解ください。

07 JR 常磐線を新ルートとした場合のタイムスケジュールと財政支出を教えてください。JRは用地買収しないとあるが、自治体が負担するということか。①⑧

→ 工事期間は3年で、用地買収はなるべく早くと考えています。財政支出ですが、町の試算ですが、亘理町（との境界）から山下駅までの区間は、現行ルートの場合、高架で

※意見末尾の丸数字は、P3表の「意見分類」を表す

約 160 億円、盛土で約 80 億円となります。これが新ルートの場合は約 110 億円となり、全線を高架とすると 500 億円、盛土併用とすると 300 億円となります。なお、用地費は JR が負担し、町は説明会や測量に関する手伝いを行います。

08 防災集団移転促進事業について、災害危険区域の第一種は買収するとあるが、価格は被災前の単価ではないか。また事業費の負担は、国 3/4、町 1/4 という理解で良いか。③④

→ 本日の資料は現行制度のものです。事業費の 1/4 の町負担分については、特別交付税措置というかたちで国から補てんされます。今後、被災者の皆さんの負担が減るよう、国・県に制度改善の要望をしております。

09 農業振興についての考え方を教えていただきたい。⑬

→ 農業振興については町域の中央を南北に新しいストロベリーラインを設置し、この沿線などに集約化するものと考えております。

10 IC 周辺に企業誘致とあるが、うまくいくのか。また、どのような企業を想定しているのか。⑬

→ 企業誘致については、交通の利便性が高い IC や県道角田山下線周辺を候補としております。工業団地の整備にあたっては、企業のオーダーを待っての整備着手と考えています。また、奨励金の拡充も考えています。IC 周辺に流通系、そして防災集団移転で買取る用地は、自然にやさしいエコタウンを目指し、太陽光パネルを敷き詰めることにより非常時やいちご農家への電力供給を考え、折衝を進めています。

11 災害公営住宅をつくるタイムスケジュールを教えてください。⑤⑧

→ できるだけ早いタイミングで入っていただけるよう県に要請し、平成 24 年度末には入居していただけるよう取り組んでいきたい。

12 JR 常磐線の用地交渉に時間がかかると、人口の町外流出が止まらなくなるのではないか。このままでは、住民票を移していない人もいずれ移ってしまう。若い世代が減ることで税収が減り、町政運営に支障をきたすのではないか。①

→ 少子高齢化、人口減少社会の中、素晴らしい自然・環境、そして絆・コミュニティを活かしたまちづくりが必要と考えております。まちの活性化を図るには、住宅が連担し、お店があるようなまちづくりが必要ですが、生活のインフラは維持管理がかかります。一定の人口で負担を少なくサービスは高くするためには海岸線の土地利用を工夫しながらコンパクトなまちづくりが必要であり、そのために一時的な人口流出はあるかもしれませんが、これらと合わせ定住促進策を図り、また交流人口を増やしていくことで、町の活力を一定水準維持できるものと考えています。高速道路、国道、県道、鉄道など、交通のポテンシャルは非常に高いので、皆で知恵をだせば色々な可能性を秘めていると思います。

13 JR 常磐線の新ルートに家は何件かかるのか。①

→ 机上の計画ですが、数十件程度だと思います。これからルートを固めていくなかで既存家屋になるべくかからないよう JR と協議していきます。

※意見末尾の丸数字は、P3 表の「意見分類」を表す

14 建築制限により永久的に住めなくなると農業もできなくなり、荒地となってしまわないか。集団移転は反対しないが、住みたい人も半分以上いるのに制限するのはいかがなものか。これがJRよりも一番の問題。今住んでいる人は住んでも良いといっても、周りがなくなってしまう。③

→ 本日の資料は案としてお示ししたものですので、検討させていただきます。

15 いちご農家だが、ハウスは温度管理が大切であることから農地と住宅の距離は1kmが限界と思うので、国道6号沿いに公営住宅をつくる計画をしてほしい。⑤

→ イチゴ農家を念頭に置いた住宅団地の整備ですが、本日お示ししているのはコンパクトな街づくりを目指す中で、中心市街地を整備したいということで、このような場所への集団移転を促したい。団地造成は土を動かす、防災緑地、県道の盛土、JRの盛土、土が必要、団地造成は町内バランスが大切。これをベースにご意見を踏まえた住宅の在り方を工夫する余地がないか詰めさせていただきたいと思う。

16 3/11の大津波で磯は壊滅的な被害を受けたが、海岸の浸食を放置した人災ではないか。⑭

→ 潮流の変化により山元町の海岸の浸食が進んでいるという見解もあるようですが、防潮堤の工事を国で取り組んでもらっている。今回の被害は津波が南から押し寄せたことによるものが大きいと考えていますが、潮流の変化との関係については今後、因果関係を確認したいと考えています。

17 チーム山元として職員、議会が一つになって復興に取り組んでいただきたい。⑮

→ 行政も町民も経験したことがない大きな災害に直面しました。これまでに避難所の運営、救援物資の差し入れ、復興計画の取り組みなど、限られた人数で膨大な任務をこなしてきました。応援部隊の力、町民の力を合わせてこの半年対応してきました。今後は、町民との対話を重ね、復興まちづくりを進めていきたいと思っておりますので、よろしく願います。

18 災害危険区域に属する世帯が何戸あって、どれくらい災害公営住宅を見込んでいるのか。公営住宅の払下げには大変期待しているので、できる限り多く作ってほしい。③⑤

→ 現在、被災者へのアンケート調査を行っておりますので、この結果を踏まえ、戸数を計画するとともに、位置については検討していくものとしています。

19 JR常磐線のルートはどちらでも良い。①

20 20mの高さの堤防で千年に一回の津波を防げるのであれば、それをつくれば良いのではないか。そうすれば他の整備もいらず、どこに住んでも良いのではないか。高台にあっても役場は使えなくなったし、太陽ニュータウンも決して安心ではない。予定時間を過ぎているので特に回答は求めません。⑭

以上

※意見末尾の丸数字は、P3表の「意見分類」を表す

○町外へ移転された方：9/10（土）10:00～

01 この計画を実現するのにいくらかかって何年でできるのか。財政的な問題やクリアすべき法律も多いと思うが20年、30年先の実現では遅すぎる。⑧

→ 計画期間は基本方針に示しておりますが、8年を基本としています。その中で、JR常磐線の開通と被災者の住宅確保を最優先に考えております。これから行う各種事業は、費用負担も含め国や県、JRなどの協力をいただきながら進めていきますし、町としてもJR常磐線の用地取得のフォローを行っていきます。なお、事業費についてはまだお示しできませんが、国や県との調整後、お知らせしたいと思います。

02 復旧・復興のために行う事業は、地元雇用につながるようにしてほしい。⑮

→ 各種復旧復興事業の実施にあたっては、地元雇用を考えるとともに、定住の場を確保することで活力を維持していきたいと考えています。

03 この計画は大規模開発を伴うので各種法律をクリアするとともに予算の確保が不可欠である。先行き不透明な状況で2～3年何も進まないと言元町は死んでしまう。JR常磐線は用地確保後3年ということだが、亡くなられた方の用地買収となると法律や登記など時間がかかると思うので、今から検討プロジェクトチームを立ち上げて始めてほしい。また、特区制度を活用するなど、国、県の協力を借りながら開発を進めてほしい。⑮

→ 国や県には町の被災状況を説明し、短期間で復旧・復興を行うための特区制度の活用を要求していきます。既に町職員で対策チームも編成しており、コンサルタントも含め、一丸となって取り組んでいきます。なお、開発にあたっては、林地開発、環境アセスメント、文化財調査などが必要になります。既に候補地抽出の際、法規制などは抑えておりますが、各種手続きの簡素化を求めながら速やかに事業を進めたいと思います。鉄道の新ルート用地取得に当たっては、早期に測量できるよう調整を進めたいと思っております。

04 防災集団移転の土地を買い取るとのことだが、農地だけの人も対象になるのか。また、補助などは資料に記載の金額となるのか。④

→ 現行制度は今回のような未曾有の災害を想定したものではないため、国、県と協議し、山元町に適したルールや区域を考える必要があると思っております。国も補助限度額の撤廃を検討しているようですので、農地の方など、今までのルールで適用できない方についても検討していきます。

05 資料の5ページの災害危険区域に坂元地区の区域が示されていないが。③

→ (全体の区域を示した図面をパワーポイントの画面にて表示)

本日提示した第一種、第二種、第三種の区域は浸水深によって分けておりますが、今後整理していきます。

→ 坂元地区の災害危険区域を示した図面もいただきたい。

06 県道の嵩上げは良いと思う。農免道路も嵩上げしたらどうか。②⑭

→ トラクターの出入りなどの状況を踏まえながら検討していきたいと思っております。

※意見末尾の丸数字は、P3表の「意見分類」を表す

07 今回の震災で防災無線が聞こえなかったところがある。今後、そのようなことがないようにしていただきたい。⑭

→ 最近の住宅事情でも聞こえるように対応するとともに、防災無線をカバーするラジオ、自助の対応も訓練などで徹底していききたいと思います。避難路や避難所も抜本的な見直しが必要と考えています。

08 今回の震災で亡くなられた方は、山元町は600人超であったのに対し、新地町は100人程度であった。この差は、防災無線の差と実感した。防波堤や道路などのハード面も重要だが、すべてをカバーするのは難しいので、防災無線システムやラジオにもお金をかけてほしい。原発では電源がとまったことで大変なことになった。防災無線もアンテナや電源系統が壊れれば機能しないので予備が必要ではないか。防災無線を10m程度上に建てることも必要と思う。まちづくりは大事だが、いざというときに逃げられる安全なまちとする計画としてほしい。⑭

→ 大変建設的なご意見を伺いましたので、具体の計画に反映していききたいと思います。

09 仮設住宅の入居期間の延長はあるようだが、民間賃貸住宅の延長はないのか。⑮

→ 応急仮設住宅については制度が緩和され2年3か月であったのが県の判断で1年ごとの延期が可能となりました。現行制度では民間賃貸住宅は2年間となっていますが、今回は未曾有の災害ですので、現状を踏まえた制度の創設・見直しが必要と考えます。

10 県道相馬亘理線のもとのルートはどうなるのか。⑮

→ 新ルート整備後、旧道は町道として利用します。なお、現道の復旧は県にお願いしているところです。

11 農免農道が新しいストロベリーラインとのことだが、農道は歩道とか信号が付けられないと思うが、通勤・通学の安全性が確保されるのか。また、店舗等の立地は可能か。⑭

⑮

→ 信号は安全性を確保するために必要な施設のため、農道というよりも交通量によるものと思います。農免農道の事故対策は震災前から考えておりましたので、検討したいと思います。歩道についても通学路指定などがあれば、その設置を検討したいと思います。店舗の立地制限は特になくはないと思いますが、担当部署に確認しておきます。(農道は建築基準法上の道路ではないことから接道義務を満たさないため、①道路法の認定を受ける、②建築審査会の同意を得る、ことにより建築が可能となる。)

12 多重防御は良いが、それによって排水不良とならないよう留意してほしい。②⑭

→ 町としても内水対策は十分留意して進めていききたいと思います。

13 メガソーラー発電によるアピールも視野に入れてほしい。⑫

→ ソーラー発電は雇用の支援にもなることからその導入について関係者と調整を始めています。場所は防災緑地ゾーンの防災集団移転による買取地などを考えています。

14 防災緑地ゾーンにはレジャー施設を建てるだけでなく、人の心を温かくする植物を植えてほしい。北海道のラベンダーなど、観光客が足を運んでくれるような、また千本桜など町民と一緒につくっていきけるようなものが良いと思う。⑬

→ 緑地ゾーンには農地も含まれていますが、かねてから耕作放棄地を活用した花畑を考えておりましたので、ご指摘のような取り組みも検討したいと思います。

15 新山下駅周辺の新市街地は地震で壊れないよう、その対策をしっかりとしてほしい。⑭

→ 地盤強化はしっかりとやっていきたいと思います。

16 医療福祉地区の宮城病院は障害の方が通っている学校もあることなどから、入院している方の保護者のためのホテルの建設なども考えてほしい。また、放射能による病人を受け入れるようなことも人口減少を防ぐ対策の一つになるのではないかと。⑦

→ 町費を一銭も投じていない宮城病院は 300 床ありますが、町の宝として大事にし、これを核とした安心できるまちづくりを行いたいと考えております。清野病院長は有識者会議にも出ていただき、病院を活用したまちづくりのアイデアも出してもらっているので、原発の対応も含め連携して進めたいと思います。

17 皆が住み続けたいと思えるまちづくりをお願いしたい。⑮

→ そのように精いっぱい頑張ります。

18 現在、公共交通が非常に不便である。JR 常磐線の復旧に時間がかかるのはわかるが、このままでは生活を維持するのは難しい。当面、鉄道の復旧が難しいのであれば、常磐自動車道を早く整備することはできないか。①

→ 山元 IC から南側は事業着手しており、早期整備を考えております。国の高速道路の在り方検討委員会でも整備効果の高い路線と聞いております。高速道路はつながることで効果を発揮することから、山元町、新地町も力を入れて取り組んでおります。また、公共交通については、代行バスが遅いというご指摘もいただいておりますので、例えば役場から浜吉田駅を経由せず、直接亘理駅に行くような便やぐるりん号を有料で運行する案を考えています。JR が本格復旧するまで、これらの課題解決に取り組んでいきます。

19 新たな堤防高は 7.2m と理解して良いか。②

→ 結構です。構造などの詳細はこれからです。

20 県道相馬亘理線の新ルートだが、自宅がかかるか微妙なところである。事業を早期に進めるには早く具体的なものを示し、理解を求めるのが良いのではないかと。全員が納得するものではないので、町の考えをしっかりと持ち、それで進めてくれれば良い。②

→ 県道の新ルートは町の案として示したもので、今後、これをベースに県が検討します。県道は嵩上げを行い、7.2m の堤防、防災緑地と合わせて多重防御となるもので、現在津波のシミュレーションによる検証を行っているところですので、この結果を踏まえて具体の検討に入りたいと思います。なお、復興計画は、国の支援をいただくため、12 月議決が必要と考えています。まちづくりは町民と一緒に進んでいくので、アンケートや本日のように意見交換をしながら、最大公約数的な対応をベースに考え、しかるべきタイ

※意見末尾の丸数字は、P3 表の「意見分類」を表す

ミングで一定の判断をさせていただきたいと考えております。

21 新山下駅はなぜこの位置にしたのか。①

→ 県道や国道 6 号へのアクセスなど、総合的に考えこの位置にしております。

22 病院は町の宝であり、新駅を設置してほしい。①

→ 新駅はほしいところですが、まずは町の成り立ちを考え山下と坂元の 2 駅としています。病院の新駅については無人駅でも、という要望も出ておりますので検討課題とさせていただきます。

23 農業は一人では無理なので、集団化や株式会社化が必要ではないか。⑬

→ 行政としてもそうしていただくと支援しやすくなります。農業用機材などをすべて個人でそろえると 5000 万円ほどかかり効率が悪いのですが、農業は個人で自由にとり出す発想の方が多いた方が現状です。

24 今回の津波では海岸部の松が凶器となった。防災緑地に新たに植える植栽は、このような現実を踏まえたものとしてほしい。⑭

→ 松ではなく、先ほどご意見がありました桜や花木も含め、山元町らしい整備を心掛けます。

25 防災無線で避難指示が出ても電柱が倒れて道路をふさいだら意味がない。倒れない方法を検討してほしい。⑭

→ 災害を前提とした設置の在り方を県も含め、まちづくりの一環として考えていきます。できれば山下駅周辺など新しいまちづくりでは電柱の地中化を地下水などの状況を見極めながら努力していきたいと思っています。

26 土地利用構想（案）の基本条件に「想定し得ない津波が起きた場合」とあるが、これはどれくらいのものか。②

→ 3/11 の津波を想定しています。今回の防潮堤は、千年に一回の津波に対応するものではなく、数十年から百数十年の頻度で起きる津波に対応するものであるため、今回のような津波に対しては、多重防御で避難する時間を確保するものと考えています。

27 防災緑地は何のためにつくるのかをよく考えてほしい。津波を防ぐためなのに公園として人を集めることが理解できない。②⑭

→ 防げない津波は基本的に千年に一回の頻度ですので、土地の有効活用の観点から、また、流されてもやむを得ないことを前提とした施設配置、例えば農地や公園などを考えています。なお、具体的な計画にあたっては、避難路の確保などに留意する必要があると考えています。

28 JR 常磐線のルートは今まで全く話がなく一方的に示された。アンケートも移設ありきのような構成となっていた気がする。JR 常磐線の既存線路は災害危険区域の第二種あたりを通過しているが、これは危険で移設が必要としながら、居住は認めていることは矛盾し

※意見末尾の丸数字は、P3 表の「意見分類」を表す

ないか。①③

→ 今次津波では、2m以上の浸水で全壊、それ以下は半壊でした。災害危険区域の第二種は2～3m浸水した区域ですが、流失しないような構造規制を施すことで居住を認めるものとしております。但し、既存の建物を取り壊して直すことは現実的ではないので、新築のみとしております。なお、リフォームは可能です。JR常磐線の新ルートはこれまで町民アンケート調査結果を踏まえ、復興会議や有識者会議に諮り、一定のプロセスを積み重ねてきました。また、今回提示させていただいた資料も有識者会議で使用したものであり、ご指摘のように一方的に提示しているものではないことをご理解いただきたいと思います。

→ 災害危険区域の第二種において、新築は良いが、既存はそのままでは危なくないか。

→ この構造制限はかなり厳しく負担の大きいものですので既存の住宅は対象とせず、個人の判断にゆだねるものとしております。どうしても安全にという方は基準に対応していただければと思っています。

以上

○回収状況及び意見の傾向

行政区名	提出者の数	1 安全安心に関すること	2 道路・鉄道・バスなど交通 に関すること	3 住まいに関すること	4 農業に関すること	5 各種制度の内容について	6 その他	意見の数
18 磯	1人	—	—	1	—	—	—	1
22 花釜	10人	1	7	4	1	—	4	17
21 笠野	3人	1	—	2	—	—	—	3
23 牛橋	7人	2	1	4	—	—	3	10
7 山下	1人	—	1	—	—	—	—	1
3 大平	1人	—	1	—	—	—	—	1
15 下郷	1人	—	1	—	—	—	—	1
19 中浜	3人	1	—	1	—	—	3	5
不明	1人	2	1	1	—	—	1	5
合計	29人	7	12	13	1	—	11	44

※提出者の数と意見の数が合わない場合がある。(一人で複数意見あり)

※合計において、意見の多かった上位3つの項目の数値を赤字としている。(但し、「6 その他」を除く)

【まとめ】

- ・ご意見記入シートで最も意見が多かったのは「3 住まいに関すること 13pt」であり、ついで「2 道路・鉄道・バスなど交通に関すること 12pt」「1 安全安心に関すること 7pt」の順となっている。

○主な意見のまとめ

1 安全・安心に関すること

- ・ 津波シミュレーションの結果の周知について
- ・ 防災無線の強化について
- ・ 多重防御の考え方について
- ・ 避難所と安全灯の設置について

2 道路・鉄道・バスなど交通に関すること

- ・ 通勤通学のバスの充実について（ぐるりん号、代行バス、高速バス、スクールバス等）
- ・ バス停の位置の改善やバスのデマンド的運行
- ・ 県道相馬亘理線の整備について（幅員の確認、高架建設等）
- ・ 既存道路の整備・改善

3 住まいに関すること

- ・ 災害危険区域の第二種、第三種についても移転対象にしてほしい
- ・ 防災集団移転促進事業について（促進区域内の全住民が希望しないとできないのか、住める状態の家は対象にならないのか、災害が発生した区域はどの区域なのか）
- ・ 移転地は地区のニーズで決めればよい
- ・ 応急仮設住宅の民間賃貸における対応について（期間、助成）
- ・ 土地の買取価格等、正しい情報の早期伝達

4 農業に関すること

- ・ 特産品を生かしたまちの活性化

5 各種制度の内容について

- ・ （意見なし）

6 その他

- ・ 山下第二小学校の今後について
- ・ 被災した自営業に対する支援
- ・ 容易な語句を用いたわかりやすい説明としてほしい
- ・ 住民意向の反映

○意見結果

※【 】には、意見を頂いた方の行政区名を記載。

1 安全・安心に関すること

- ・ 津波シミュレーションの結果を早急に町民に知らせてほしい。その結果次第では、赤旗を提示した方が、黄色旗に変わるかもしれない。住民の減少の歯止めになる。【花釜】
- ・ 国は防潮堤をTP6.2と決めたなか、県道相馬亘理線を3m嵩上げする意味がないのでは。【笠野】
- ・ 3/11、仙台から歩いて山元町に戻ったが、真っ暗な道を歩くしかなかった。太陽光を利用するなど、町内の要所に暫定の避難施設や安全灯の整備をお願いしたい。【牛橋】
- ・ 復旧した防災無線の放送は良く聞こえたが、女性の声の時はわかりにくかった。【牛橋】
- ・ 新地町のように有線放送が茶の間にあり、逃げろと言われてたら亡くなった家族も助かったのではと考えるとつらい。【中浜】
- ・ 以前の海岸線より西側に150~200m付近に防波堤4mを設け、さらに県道相馬亘理線を海岸線より西側に200m移動し、JR相馬線から西側を居住地とする。但し、県道相馬亘理線とJR常磐線の盛土高を2m強にして津波防波堤の役割を兼ね備える。【不明】
- ・ 災害地に緊急放送が流れ、緊急避難道の整備を実施し、稲作の準備や冬野菜からでも収穫ができるようにしていただきたい。特に、津波災害地の方々に前向きに希望が持てる施策をお願いしたい。【不明】

2 道路・鉄道・バスなど交通に関すること

- ・ ぐるりん号の乗降を停留所のみでなく、乗客の希望に応じてできるようにならないか。仮設住宅の方も便利になる。【花釜】
- ・ 国道6号が原発の関係で東京にアクセスできない。東京電力に補償を求めたらどうか。【花釜】
- ・ 山下駅完成までの間、通勤通学対応がなされないと住民が流出してしまう。亘理駅までのぐるりん号等のこまめな運行や高速道路の運行。【花釜】
- ・ 通勤通学のための高速利用、高速バス、優先バスの運行の検討【花釜】
- ・ JRが開通するまで、亘理駅までのスクールバスが考えられないか。【花釜】
- ・ 新坂元駅を町、下郷地区の西の田の方に考えられないか。住民の増加も見込まれるのではないか。【花釜】
- ・ JRのバス停を増やしてほしい。【牛橋】
- ・ JR常磐線の跡地にくる県道相馬亘理線の幅員は何mになるのか。【山下駅前】
- ・ 浜吉田駅を利用していたので、この機会にぜひもっと国道近くまで鉄道を移してほしい。八手庭、横山、大平の将来も考えてお願いしたい。【大平】
- ・ 震災前に道路を直していたが、他の工事で休んでいる。小学校の通学路だが、雨が降ると水たまりになるため、早く舗装してほしい。【下郷】
- ・ 県道相馬亘理線の高架建設着手を希望する。【不明】

3 住まいに関すること

- ・ (防災集団移転の)土地の買取り額が、震災前の条件ではなく、震災後の土地の評価と話したことは大変良かった。正しい情報を早く周知することが重要である。【花釜】

- ・ 磯、中浜、新浜、花釜等の地区がどこに居住するかはその地区で決めればよい。安全だけでなく、生活の視点も大切。【花釜】
- ・ 災害危険区域の第二種の嵩上げは現実的ではない。特に高齢者や足の悪い人は不自由である。【花釜】
- ・ 町外に移転する場合、土地を買い取っていただけるのか。【花釜】
- ・ 応急仮設住宅は2年3か月だが、賃貸住宅も同じか。【笠野】
- ・ アパートに避難しているが、貸主の関係で支援が受けられない。公平に扱ってもらえないか。【笠野】
- ・ 自宅が災害危険区域の第二種に位置するが、第一種にしてほしい。住宅ローンが残っており、土地だけ残っても困る。19班は皆困っている。【牛橋】
- ・ 自宅が災害危険区域の第三種に位置するが、津波は状況によっては第三種でも3m浸水するかもしれないので、安全な高台に移転したい。また、国の補助も合わせてお願いしたい。【牛橋】
- ・ 畑を購入して農転したいが手続きに時間がかかる。また、土地の価格が上がりすぎており、何とかならないか。【牛橋】
- ・ 自分の住まいのこれからがわかるよう、具体的な地図がほしい。家を建てるため、土地を購入したが、手放そうか考えている。【牛橋】
- ・ 海のそばに家があるが、防波堤をつくったとき、自分の土地が海側になることはあるか。【中浜】
- ・ 防災集団移転促進事業について、促進区域内の全住民が希望しないと集団移転できないのか。今、家が住める状態で残っている場合、移転の対象にならないのか。災害が発生した地域とはどの範囲なのか。【磯】
- ・ 県道相馬互理線の嵩上げによる仮堤防の役割ができれば、家屋の修繕と町の復興となる。【不明】

4 農業に関すること

- ・ いちご、りんご、ほっき貝などの特産品に付加価値をつけ、新製品を開発してほしい。集客の手立てにもなる。【花釜】

5 各種制度の内容について

- ・ (意見なし)

6 その他

- ・ 被災して大変な思いを急に背負わされた我々をまちづくりの流れに乗せようという視点の間違った復興である。各班、区長と合意形成を図りながら復興計画であるべき。土地利用も違ったものになる。【花釜】
- ・ 山下第二小学校を一日も早く移転し、再開してほしい。【花釜】
- ・ 山下第二小学校の次年度の状況を早く示してほしい。【花釜】
- ・ 山下第二小学校の今後はどのようになるか【花釜】
- ・ 山下第二小学校が存続するのか、移転するのか、早く知りたい。もし海側に戻るのであれば山下小学校へ転校させたい。入学準備などあるので、早く決めてほしい。【牛橋】
- ・ 「ゾーニング」や「スキーム」は年齢を重ねられた方にはわかりにくい。わかりやすい

言葉で説明をしてほしい。【牛橋】

- せっかく行政区毎の説明会なので、行政区毎の説明資料を希望する。【牛橋】
- 津波により設備や機械などが流され、再開できない自営業に対する支援。【中浜】
- まちを離れている人の関心が薄れないように、広報を詳しく出してほしい。【中浜】
- 希望の持てるまちづくりになるように、国、県へ強く要望してほしい。【中浜】
- 絵に描いた餅にならないことを希望する。まちづくりは理想だけでは成功しない。財源の確保と生活者（町民）の理解と協力が不可欠。【不明】

以上

